

いわき農林水産ニュース

平成30年11月号(第165号) 発行 11月29日

ふくしまからはじめよう。

『食』と『ふるさと』新生運動ニュース



夏の高温に耐え、今年もシクラメンの花が咲きました。最近、庭先で楽しめる小型の品種も人気です。

目次

- ・【特集】森林認証……………p.1
- 〔各種取組の実績(11~12月)〕……………p.3~
- 〔お知らせ・連載記事〕
- ・頑張るいわきの農業関係者リレーインタビュー……………p.7
- ・いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果……………p.9
- ・林業における労働災害の防止に向けて……………p.9
- ・大規模経営・生産管理習得研修報告……………p.10
- ・GAP コーナー……………p.11
- ・6次化商品紹介……………p.12

【特集】森林認証

持続可能な森林林業を目指して

多面的な機能を持つ森林を未来に残すため、持続可能な森林林業を実現することが必要です。今回は、その取組の一つである「森林認証」についてご紹介します。

1 森林資源を後世に引き継ぐために

いわき管内の私有林約5万8千haは、県全体約56万6千haの1割を占め、昭和30~50年代に盛んに植林された人工林がその6割近くに達しています。木材需要の長期的低下傾向と林業経営意欲の減退等により、高齢な人工林が増加している一方で、若齢林が少ないという偏りが顕著になっています。森林の有する多面的機能を持続的に発揮させるうえでも、森林資源の健全性の確保と循環利用を両立させることが非常に重要になっています。



(市内三和町の認証森林)

このような中、いわき市森林組合では、三和町の私有林6,793.76haを対象に、「一般社団法人緑の循環認証会議(SGEC)」の国際認証制度による森林認証を平成30年4月1日に取得し、持続可能な森林経営を推進しています。

森林認証とは？

森林の管理や伐採が、環境保護や地域社会の発展に配慮して行われ、持続可能であることを評価し、それが行われている森林を認証する制度です。森林認証には、以下の2種類があります。

- ・FM (Forest Management) 認証：森林管理の認証
- ・CoC (Chain of Custody) 認証：認証森林からの林産物の加工流通の認証

認証機関としては、SGECが日本独自の認証制度として平成15年に発足した後、PEFC森林認証プログラム(PEFC、本部スイス)と平成28年に相互認証することで、国際認証制度となっています。

また、他に森林管理協議会(FSC、本部ドイツ)が、平成5年当時に世界25カ国の構成員により先駆的な国際認証制度として発足しています。

【「福島県産森林認証材のすすめ」(チーム福島・認証材)パンフレットより】



2 森林認証材の製品が初出荷されました！

11月2日(金)、いわき市勿来町の(株)荒川材木店道作工場において、福島県木材協同組合連合会の主催による「森林認証材の製品出荷式」が行われました。

当日は、いわき市森林組合、(株)荒川材木店、丸宇住宅資材(株)(千葉市)、福島県森林組合連合会、いわき市林務課、当所森林林業部の17名が参加して、森林組合の森林認証材製材品の初出荷を祝うとともに継続的な需要拡大を祈念しました。



(木材認証材の製品出荷式)



今回出荷されたのは、三和町内の認証森林から伐採搬出された SGEC 森林認証材です。(株)荒川材木店がいわき木材流通センターを通して購入し、製材加工した柱材等 25m³ を、千葉市の丸宇住宅資材(株)(SGEC 管理事業体 (CoC) 認証取得)に出荷しました。

管内の認証取得状況は？

①森林管理の認証 (FM認証)

- ・遠野興産(株) 763.36ha [FSC] (磐城造林(株)として754.00ha [SGEC])
 - ・いわき市森林組合 6,793.76ha [SGEC]
- 2カ所の合計面積は 7,557ha となり、県全体の認証森林面積 12,981ha の 58%を占めています。

②加工流通の認証 (CoC 認証)

- ・(株)荒川材木店 [SGEC]
- ・(有)平子商店 [SGEC]
- ・福島県森林組合連合会(いわき木材流通センター) [SGEC]
- ・(株)ダイテック [FSC]
- ・遠野興産(株)山林部 [FSC]
- ・協同組合いわき材加工センター [FSC]

3 持続可能な森林林業を目指して

当所では、持続可能な森林林業の実現と林業の成長産業化を図るため、森林資源の循環利用と木材フル活用体制の構築、森林認証材を核とした地元産材の利活用拡大、安定的な供給体制の構築等を目指しています。

今後も、「磐城流域いわき地区林業活性化センター」を支援しながら、関係者一体となった課題解決への取組を進めてまいります。

(森林林業部)



第1回ふくしま植樹祭開催！

〔11月4日(日)〕

南相馬市鹿島区北海老地内にて、「第1回ふくしま植樹祭」が開催されました。

ふくしま植樹祭は、今年6月10日に開催された「第69回全国植樹祭ふくしま2018」の開催理念を引き継ぎ、ふるさと再生への思いを込めた植樹活動により、「未来へつなぐ希望の森づくり」を加速させるとともに、復興に向けて歩み続ける福島の姿を広く発信することを目的としています。

県内外から約3,000人が参加し、歌舞伎俳優の市川海老蔵さんにもお越しいただきました。植樹以外にも木工、丸太切り、薪割りなどの体験活動や福島県産品のコーナーも大変賑わっていました。

穏やかな陽気のもと、皆さん楽しそうに植樹していました。(森林林業部)



(植樹の様子)

いわき地方高病原性鳥インフルエンザ防疫演習を実施 〔10月26日(金)〕

いわき市南部アリーナにおいて、高病原性鳥インフルエンザの発生を想定した防疫演習を実施しました。

家きん(鶏、あひる、うずら、きじ、だちょう、七面鳥など)において高病原性鳥インフルエンザが発生した場合は、拡散防止のため、速やかに防疫措置をする必要があります。

今回の防疫演習では、参加者が防護服の正しい着脱方法や捕鳥、関係車両の消毒等について体験し、防疫措置に関するスキルアップを図りました。

高病原性鳥インフルエンザはこれから発生リスクが高まる本格的なシーズンを迎えますが、引き続き万全な体制整備に努めてまいります。(農業振興普及部)



(捕鳥演習の様子)

新橋の物産イベントに市内関係団体が出展！(県の補助事業も活用) 〔11月8日(木)～11月9日(金)〕

東京都新橋駅前のSL広場で、「2018新橋イルミネーションフェスタ」が開催され、いわき市、一般社団法人いわき観光まちづくりビューロー、みらくぼ会(市内好間町で地元米の生産に取り組む農業者グループ)が出展しました。

このイベントは、愛宕一之部連合町会、ラ・ピスタ新橋地元連絡協議会の主催のもと、港区と「商店街友好都市」の協定を結んでいるいわき市及び北九州市が協賛して開催され、両市の特産品や飲食店のブースが並びました。イベントは帰宅途中のサラリーマンなどで賑わい、みらくぼ会が販売した地元米「久保姫の舞」と甘酒は、イベント終了前に完売するほど大人気でした。(企画部)



(いわき観光まちづくりビューローの出展では、いわきの地酒や常盤ものなど様々な加工品が販売されました。)

いわき観光まちづくりビューロー・みらくぼ会は、『ふくしまプライド。』販売力強化支援事業を活用しています

『ふくしまプライド。』販売力強化支援事業は、県内の市町村、民間団体、県域等農業団体が、国内において実施する県産農林水産物の販売促進活動等に対して支援を行う県の補助事業です。次年度の募集は未定ですが、情報が入り次第お知らせしますので、販売促進活動をお考えの方は活用をご検討ください。

ほ場整備事業「大野第二地区」で権利者会議を開催

〔10月23日(火)〕

ほ場整備(農地の区画整理)事業の大野第二地区は、平成23年度に事業を開始し、約21haの区画整理を行いました。ほ場整備では、事業に参加した農家が所有する農地の権利を、整備後の区画形状に合わせて再編する「換地」という手続きが必要で、この換地計画について関係者の承認を得るための「権利者会議」を開催します。

この会議が中島公民館で開催され、計画に対して賛成多数で承認を得ました。

ワンダーファームの開設では、換地を活用して施設に必要な用地を円滑に確保する手法を利用しており、ほ場整備の実施が農作業の効率化だけでなく、地域の営農拠点整備にも資する優良事例となっています。

ほ場整備の実施を検討している地域では、地域の営農ビジョンを考えるときに、このような事例も参考にいただければ幸いです。



(権利者会議における家久来所長挨拶)

(農村整備部)

管内の若手農業者が東北農村青年会議宮城大会で発表!

〔11月1日(木)〕

宮城県松島町で、東北各県の若手農業者が取組や意見を述べる「東北農村青年会議」が開催され、いわき農業青年クラブ連絡協議会に所属する中村彰宏さん(渡辺町、原木椎茸等栽培)と、根本大我さん(平平窪、梨栽培)が福島県の代表者として発表を行いました。

中村さんは、原発事故の影響により減少した売上げを取り戻そうと、新たに6次化や販売価格の見直しに取り組んだ事例について発表し、根本さんは、就農のいきさつや、ベトナムへの梨輸出に取り組んだ経験と、今後の目標について発表しました。

発表の結果、惜しくも入賞は逃しましたが、それぞれ自信を持って発表に臨み、「この経験を今後の活動に役立てたい」と抱負を語られていました。



(左から根本さん、中村さん)
p.7から、中村さんへのインタビューを掲載していますので、是非ご覧ください。

(農業振興普及部)

いわき農業青年クラブ連絡協議会が食育活動を実施

〔11月16日(金)〕

いわき農業青年クラブ連絡協議会は、いわき市教育委員会と江名公民館が主催した「いわき・わくわく仕事塾」に講師として参加しました。

当日は、江名小学校1・2学年の児童とともに、6月に植えたさつまいもを収穫しました。児童は、自分たちが育てたさつまいもを掘り起こし、「大きい!」「おいしそう!」などと歓声をあげていました。収穫したさつまいもは、茹でて、みんなで味わい、「甘い!」「ほくほくしてる!」と感想を話していました。最後に児童から感謝の言葉が送られ、クラブ員は感激していました。



(活動の様子)

(農業振興普及部)

復興・久之浜漁港まつり

〔10月21日(日)〕

久之浜漁港で、「復興・久之浜漁港まつり 2018」が開催されました。いわき市漁協久之浜支所採鮑組合では、乗船体験とヒラメの放流、海のいきもののタッチプールを行いました。乗船体験では整理券を求めて長い行列ができるほど大盛況でした。当日は風が強く、参加者は時折波しぶきを受けてしまいましたが、漁船の迫力に大興奮の様子でした。ヒラメ稚魚の放流を行った子供たちは放流の際に「ヒラメの稚魚はかわいいね」や「大きくなって戻っておいで」



(ヒラメ稚魚の放流)

などやさしい声をかけていました。

タッチプールでは、特に小型のサメが大人気で参加者は「このサメはかまないの?」とか「触るとザラザラしている」などと言いながら触っていました。その他にも地元の魚介類や水産加工品の販売、サンマつまれ汁の無料試食や豪華景品の当たる大抽選会もあり、大盛況でした。今後もこのような体験型イベントを通じて地元水産業のPRをしていきたいと思ひます。

(水産事務所)



(タッチプールの様子)

トピック1

秋の風物詩、サケの来遊について (10月~11月)

秋の風物詩のひとつであるサケの遡上が、今年も9月下旬より県内の沿岸河川で見られるようになりました。10月初旬からは、沼之内市場、小名浜魚市場にさし網により漁獲されたサケがみられ始め、いずれも11月上~中旬にかけてピークを迎えました。11月上旬までの市場への水揚げ量は約8.4トンと昨年の約5.7トンを上回りました。

サケは栽培漁業で最も古くから歴史があり、県内でもサケ増殖団体による人工孵化放流事業で資源が支えられています。来遊してくるサケは、4年前に放流した群が主群で、今年漁獲されたサケは震災以降に放流されたものです。水揚げ量の増加からは、放流事業が震災による大きな被害から着実に復興していることが伺えます。

(水産事務所)



サケの初水揚げ
10月4日 沼之内魚市場



お知らせ

河川及び河口付近でのサケの採捕は、法令等により禁止されております。これらの場所でサケを捕らないよう、ご注意願ひます。



イオン小名浜「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーン [11月23日(金)～11月25日(日)]

イオンモールいわき小名浜店で、県産農林水産物の魅力や安全性をPRするため、県主催によるキャンペーンを実施しました。今回は、県産米(里山のつぶ・天のつぶ)、水産物(メヒカリなど)、牛肉、野菜や6次化商品などのPRと販売を行いました。

23日の開会セレモニーでは、100人以上の来場客が集まる中、畠利行副知事・家坂有朋イオン(株)イオン東北代表の挨拶の後、野崎哲県漁業協同組合連合会代表理事会長による水産物のPRと、「うつくしまライシーホワイト」の永井さんによる「里山のつぶ」のPRや、玄米コーヒーなどの記念品配付が行われました。セレモニー終了後には、大勢の方々が、米、牛肉、直売所コーナーで試食・購入いただくなど、熱気を感じるほどの賑わいでした。



右から、野崎県漁連代表理事会長、畠副知事、家坂イオン東北代表、ライシーホワイトの永井さん

(企画部)

「たびと ほっこり祭」開催!

[11月18日(日)]

田人町の田人ふれあい館において「たびと ほっこり祭」が開催されました。このお祭りは、平成20年に始まり、地元根付いたイベントとして人気を博してきましたが、今年から行政の補助金に代えてクラウド・ファンディングにより開催資金を募りました。田人地域振興協議会を中心とした実行委員会が準備を進め、今回11回目となる開催にこぎつけました。

当日は、晴天に恵まれ、地元産の新鮮野菜を販売する軽トラ市、フリーマーケット、飲食ブースのほか、木工工作、乗馬体験など様々なイベントが開かれ、多くの人で賑わいました。

県としても、このような農山村を元気にする地域の取組を積極的に応援してまいります。



「貝泊コイコイ倶楽部」は、味噌漬け、キムチ、役者大根を販売。東日本国際大学と龍谷大学(京都)の学生さんがお手伝いしていました。

(企画部)

トピック2

豊かなむらづくり全国表彰「貝泊コイコイ倶楽部」農林水産大臣賞

農山漁村における「むらづくり」の優良事例をたたえる「豊かなむらづくり全国表彰事業」において、本県の代表として推薦されていた「貝泊コイコイ倶楽部」(市内田人町)が、この度、農林水産大臣賞の受賞が決まり、11月16日に、宮城県仙台市内で東北ブロック表彰式が行われました。

同倶楽部は、平成14年に貝泊地区の住民により、閉校の危機にあった地元の小中学校を存続させることを目的に設立され、全国各地から1ターン移住者を数多く受け入れてきました。震災以降も地道に活動を続け、農業体験イベントなど都市部住民との交流を積極的に進めたことなどが高く評価され、今回の受賞に繋がりました。

今回の受賞を機に、ますますの活躍が期待されます。

(企画部)



(「東北ブロック表彰式」記念撮影)

頑張るいわきの農業関係者リレーインタビュー！Vol.11

毎日の食事がちょっと楽しみに。優しいおいしさをお届けします。

ファーマーズハウスさわ 中村彰宏さん、公一さん、優里さん

前回取材にご協力いただいた市川さんから紹介のあった、渡辺町「ファーマーズハウスさわ」の中村彰宏さん、そしてご両親の公一さん、優里さんにインタビューしました！

肉厚、ジューシー！こだわりの「原木椎茸」はいかが？

彰宏さん：私たちは、渡辺町で椎茸の原木栽培と水稻、ズッキーニやミニトマト等の夏野菜を生産しています。原木栽培とは、丸太（原木）に穴をあけ、きのこの種菌を打ち込む生産方法で、年間約 2,200 本の原木で椎茸を生産しています。毎年2～3月に、長さ約 90cm の原木 1 本につ



椎茸の「ホダ木」。肉厚な椎茸がばこぼこと出てきています！

き約 50 箇所、植菌を行い、夏の間は、椎茸菌が原木全体に広がり椎茸が発生する準備が整う「ホダ化」を待ちます。ホダ化が完了した原木を「ホダ木」といい、10月頃から翌年の春まで収穫することができます。



今回ご協力いただいた中村さんご一家
左から彰宏さん（33）、
優里さん（64）、公一さん（65）

取材の間も笑顔が絶えない、とても穏やかで仲のよいご家族です。

「ファーマーズハウスさわ」として、家族3人新たなスタートへ

公一さん：私は、会社に勤めながら妻と協力して農業をしていたのですが、県外に進学していた息子の彰宏が5年前に戻ってきてくれました。今では息子が代表となり、「ファーマーズハウスさわ」として、家族3人協力して取り組んでいます。

彰宏さん：もともと私は、必ずしも農家を引き継ごうとは思っていませんでした。しかし、大学院で、県外の限界集落で地域計画に関する研究をしているうちに、生まれ育ったこの地域と、ここで農業を営む我が家の可能性に気づき始めたんです。平成26年、思い切って実家へ戻り、そのまま就農することに決めました。

公一さん：農家として長年同じ作業をしていると、新しいことにはなかなか挑戦しづらくなるものですが、息子が戻ってからたくさんの変化がありました。加工場の設置やイベント出展、椎茸の市場調査、時には、息子が開設したサイトを見てくれた東京の飲食店の方から声がかかり、新たなつながりが生まれる出来事もありました。やはり、これからの農業には若い人の力が不可欠だと実感しています。



原木椎茸・夏野菜のハウスと、「ホダ木」を浸水する設備（左手前）。椎茸の発生には刺激が必要で、ホダ木を数時間浸水させます。浸水後、1週間ほどで椎茸が発生します。

優里さん：中でも加工品の開発は、私がずっとやってみたいと思ってたことのひとつでした。何度も失敗を重ねましたが、試行錯誤の末、椎茸のピクルスや煮物、夏野菜のピクルス、また、梅や柚子も少し育てていたのので、それらを使ったジャムなどを完成させることができました。加工品を販売する時に農園の名前が必要だろうと考え、代々農業を営んできた我が家に、初めて「ファーマーズハウスさわ」という名前をつけました。「さわ」というのは我が家の屋号で、家族で協力しながら、アットホームな農園でありたいという想いを込めています。



椎茸はすべて手作業で収穫します

アイデアあふれる“さわ”の秘訣は、経営管理と適度な「ゆとり」

公一さん：息子が労働時間や農作業の進行、収益などをすべて計算し、労働環境や経営の管理を徹底してくれるので、業務の見通しがはっきりとして、その分余裕が生まれました。農家は朝から晩まで、毎日休みなしのイメージがあるかもしれませんが、私たちは、休憩や休日をきちんと確保し、無理をしすぎず「適度なゆとり」を持つことを大切にしています。

優里さん：休日に家族で出かけて買い物をしたり、初めて訪れる店で食事をする事なんか、実は商品開発のヒントになったりします。最近、梅を使った新しいお菓子を開発中で、まぶした砂糖が溶けてしまったり試行錯誤の毎日ですが、家族であれこれ話し合っって改良していくのも楽しい時間です。



試作中のお菓子
完成が楽しみです！

彰宏さん：心を込めて作ったものを、お客さんに「おいしい」と言ってもらえるのが私たちにとって一番の喜びです。これからも、おいしい椎茸、野菜を多くの方に楽しんでいただけるよう、私たちのペースで前に進んでいけたらと思います。

ファーマーズハウスさわ

所在地：いわき市渡辺町中釜戸字大木田 65
TEL：090-4042-3520

Mail：nakamurafhs@gmail.com
Web：https://www.nakakamado.com

- 原木椎茸の甘煮・佃煮 各 380 円
- 原木椎茸の和風ピクルス 600 円

- 旬野菜のピクルス 700 円
- 写真は左からミニきゅうり、UFO
ズッキーニ、ミニトマト



原木椎茸は、今頃から3月までが最盛期です！



お知らせ

いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果（平成30年10月分）

□ 農林畜産物の検査結果

平成30年10月の農林畜産物モニタリングでは、検査した12品目31検体すべてにおいて放射性セシウムが基準値（100Bq/kg）を超えたものはありませんでした。

内訳は（表1）のとおりです。また出荷制限状況は（表2）のとおりです。 （企画部）

（表1）放射性セシウムが基準値以下の品目と検体数

サツマイモ 1、ブロッコリー 1、ギンナン 1、カキ 1、クリ 2、秋そば 1、 菌床しいたけ（施設）7、菌床なめこ（施設）2、菌床うすひらたけ（施設）1、エリンギ（施設）1、牛肉 8、原乳 5
--

（表2）出荷制限および出荷自粛品目（10月末現在）

制限、自粛	区分	品目
出荷制限	山菜	たけのこ、ぜんまい、たらめ（野生のものに限る）、 わらび（野生のものに限る※）、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ（露地）、野生きのこ（摂取も制限）
出荷自粛	山菜	さんしょう（野生のものに限る）
	果物	クリ（該当生産者に限る）

※わらび（栽培）は該当生産者6名のほ場に限り出荷制限が解除されました。

□ 海産魚介類の検査結果

平成30年10月の水産物モニタリング検査では、452検体の魚介類を検査し、放射性セシウムの基準値（100Bq/kg）を超えたものはありませんでした。

放射性セシウムの検出限界値未満の割合は、平成30年10月には99.6%となっています。11月21日現在の出荷制限等指示魚種は（表）の7種類になっています。 （水産事務所）

（表）海産魚介類に関する国の出荷制限等指示

ウミタナゴ	サクラマス	ムラソイ
カサゴ	ヌマガレイ	ヒノスガイ
クロダイ		

平成30年11月21日現在

トピック3

平成30年度福島県きのこ品評会で、市内2団体が受賞！

10月19日（金）、県林業研究センターで行われた平成30年度福島県きのこ品評会で、農事組合法人いわき菌床椎茸組合出品の乾しいたけが乾しいたけ部門で福島県きのこ振興協議会会長賞、有限会社すずき農園出品の菌床なめこがなめこ・ひらたけ部門において福島県森林組合連合会代表理事会長賞を受賞しました。

きのこ品評会は、きのこ生産技術の改善による品質の向上と需要拡大の促進などを目的に行われています。震災後、原発事故の影響で3年間休止していましたが、平成26年度から再開され出品数も徐々に増えています。

受賞した乾しいたけ、なめこは、20日（土）、21日（日）に行われた平成30年度福島県きのこまつりで展示・販売されました。 （森林林業部）



（品評会の様子）

林業における労働災害の防止に向けて ～ゼロ災でいこう、ヨシ!!～

林業における労働災害はチェーンソーに起因する割合が高く、休業4日以上[※]の労働災害の約2割を占め、死亡災害をみると伐倒方向が不適切であるなどチェーンソー作業に関係するものが約6割に達しています。県内の平成30年10月末の林業労働災害発生状況は34件（死亡者数1件）で昨年同時期を11件（同1件）上回る事態となり、林業事業者等の方々には、伐木等の安全な作業方法の徹底など労働災害防止対策の一層の推進を図られるようお願いいたします。

県では、林業・木材製造業労働災害防止協会福島県支部と連携し、いわき労働基準監督署や安全衛生指導員とともに先山ゼロ災推進安全巡回指導を行っております。間伐等の作業が本格化する中、上下作業は行わない・車両系木材伐出機械の作業計画を確認するなどして、決して危険な作業は行わないよう安全作業の徹底をお願いします。（森林林業部）

「手を抜くな 作業手順と基本動作」 ※平成30年度 林材業労働安全標語より

レポート

大規模経営・生産管理習得研修報告

いわき農林事務所 農業振興普及部 地域農業推進課 技師 本田和幸

平成30年5月の研修[※]に引き続き、9月22日から2週間、農事組合法人^{らんじょう}頼成営農組合（富山県砺波市）で現場研修をしてきました。

1週目は、6条コンバイン3台で1日6haを刈り取る稲刈り作業を行いました。福島県の刈取作業と異なる点は、品質を重視し、籾水分が多少高くても刈取作業を行い、9月までに刈取作業を終わらせることです。富山県は福島県よりも秋の降水量が多く、籾水分が下がるまで待つと著しく品質を落としてしまうため、高性能のコンバインを複数台稼働し、適期刈取りを実現しています。



（稲刈りの様子）

2週目は大麦の播種作業で、90馬力トラクタで作業を行いました。大麦を経営に導入している理由として、一つは国の転作目標を確実に達成するため、県をあげて大麦の導入を推進したこと。二つ目は、頼成地区は一級河川の新川が近くを流れており、水稻の大型機械がほ場に入れないようなことがあり、大麦を導入し、ほ場の排水性を高めるためです。

富山県の稲作経営体は今大きな変革期にあると頼成営農組合長は話していました。業務用米の導入はほぼ必須になりつつ、さらには、土地利用型園芸品目を導入し、経営の発展を考えています。本研修で得られた知見を、今後、本県農業はもとより、いわき市の農業振興施策の推進に役立ててまいります。（農業振興普及部）



（大麦ほ場の土作り）



（自動飛行型ドローンの実演会）



15歳の挑戦！
（地元中学生の職場体験）

※5月の研修については、平成30年6月号に掲載しています。

GAP コーナー

GAP (Good Agricultural Practice) : 「農業生産工程管理」

いわき地方認証 GAP 研修会にて、救急救命講習を実施しました

11月7日(月)、いわき市平消防署にて、GAP取得に向けて取り組んでいる農業者6名を対象に、救急救命講習を実施しました。この講習は、JGAPの適合基準にある「労働安全の責任者」を満たすために必要な資格を取得するために実施しました。

講習は心肺蘇生、人工呼吸、AEDの使用等の一連の流れについて消防士からの説明及び実技指導を受けました。

今後も当事務所は、研修会等による認証GAP取得支援を続けてまいります。(農業振興普及部)



(心肺蘇生の実技指導の様子)

いわき地方 GAP 推進協議会にて、消費者向けイベントについて協議しました



(推進協議会の様子)

10月19日(金)、JA福島さくらいわき地区本部にて、平成30年度第2回いわき地方GAP推進協議会を開催しました。今までの管内のGAPの推進状況や、消費者を対象にしたGAP認知度向上を目的としたイベントについて協議しました。

協議の結果、消費者の認知度向上による、GAP農産物の需要の創出を目的として、来年2月にGAP農産物販促フェアの開催及びGAP取得農場の現地視察を実施することとしました。詳細につきましては、今後の農林水産ニュース及び新聞等でお知らせいたします。

(農業振興普及部)

トピック4

「小川町土地改良区」解散記念式典

長年にわたり、小川地域の基盤整備を名実共に推進してきた「小川町土地改良区」が、11月2日(金)に解散記念式典を執り行いました。小川町土地改良区は昭和40年に前身の3つの水利組合(赤井、上小川、下小川)が合併して誕生して以来、20地区の基盤整備を自ら実施した他、数々の県営事業を支えてきました。土地改良区が自ら実施した事業の中では、JR東日本の踏切移設のような難易度の高い工事も実施するなど、非常に優れた事業遂行能力を発揮し、農林事務所としても模範としてきました。

平成の時代に入り、事業実施が一段落してからも、解散の日を迎えるまで地域に根差して行政との橋渡しの役割を果たしていました。記念式典には約90人が参列され、清水いわき市長や県農林水産部・菊地次長をはじめ多くの方々がその功績を称える一方で、小川地域における損失の大きさを思って解散を惜しみました。

小川町土地改良区が整備した農業基盤は、いわき市や他の土地改良区に引き継がれ、これからも地域の農業の発展に貢献していきます。(農村整備部)



小川町土地改良区
草野弘嗣理事長による挨拶

こだわりと美味しさがつまった
いわき自慢の6次化商品をご紹介します！

渡辺町の「彩花園」では、遠藤さんご夫婦が「マコモタケ」を使った、様々な商品を販売しています。中でも、これからの寒い季節におすすめの商品は中華まんです。マコモの若葉パウダーを練りこんだ淡いグリーンのもちもちした皮が、大きくカットされたマコモタケとたっぷりの具材を包み込んでいて、マコモタケのシャキシャキした食感とほんのりとした甘みを感じることができる、食べ応え十分の中華まんです。その他、マコモタケを使ったおこわ、きんぴら、天ぷらも人気です！調理方法で異なる食感をお楽しみいただけるのもマコモタケの特徴です。是非、生産者こだわりの味をお召し上がりください。



遠藤さんご夫婦

【マコモタケ中華まん】

販売価格/300円(税込)

●上に乗ったマコモタケがポイントです！

マコモタケとは？

イネ科「マコモ」の根元にできる大きな茎の部分のことです。低カロリーで、食物繊維やカリウムなど、体に良い効果のある栄養素を豊富に含んでいます。田んぼでも栽培できる作物で、食感はタケノコに似ており、煮る・焼くなど、様々な料理にお使いいただけます。

【お問い合わせ】
彩花園

- いわき市渡辺町泉田字一町田24 ●TEL・FAX.0246-44-3641
- 携帯.080-1849-0181(遠藤)
- 営業日時/毎週日・水曜日9:00~17:00(※商品等無くなり次第終了)



編集後記

いわきもいよいよ寒くなってまいりました。皆様、冬本番を迎える準備はできましたか？

今回、リレーインタビューで伺った中村さん宅では、穏やかなご家族に温かい掘りごたつで迎えていただき、心も体も温まる取材となりました。中村さん、ありがとうございました。

いわきは、海や日照時間の長さから夏のイメージが強いですが、これから迎える冬の時期も、原木椎茸はもちろん、いちごや秋冬ねぎ、あんこう鍋など、おいしいものがたくさんありますよね！是非、体調管理に気をつけて、いわきのおいしいものを食べながら風邪や寒さを吹き飛ばしましょう！

◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。
福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
(県いわき合同庁舎 3階)
TEL (0246)24-6152 FAX (0246)24-6196
URL <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース